

- ① トヨは、一週間後の昼過ぎ、大臣を見舞いに訪れた。
- ② 大臣の扱いは、冷たかった。
- ③ その理由は、大臣がトヨの法学を評価したからである。
- ④ もう一つの理由は、トヨのエリスと別れるという約束を、大臣が相沢から報告を受けたからである。
- ⑤ 大臣は、一緒に帰国するように半ば強制的に伝えた。
- ⑥ トヨは、相沢との約束は嘘だったと言った。
- ⑦ 断れば帰国や名譽回復の機会は二度となく、ベルリンでフリーターになると思った。
- ⑧ トヨは、一週間の猶予をもらった。
- ⑨ トヨは、帰ってエリスに帰国することをキツバリと伝えよつと決意した。
- ⑩ ホテルを出た時のトヨの気持ちは落ち着いていた。
- ⑪ トヨは、すぐに家に帰った。
- ⑫ トヨは、古い教会の近くのベンチに長時間座り込んでいた。
- ⑬ トヨは気がつくや外套や帽子は夜露に濡れていた。
- ⑭ 十時五十三分頃に再び歩き始め、〇時十七分頃にブランデンブルク門に到着した。
- ⑮ 一月上旬の夜だったので、空には上弦の月が出ていた。
- ⑯ 周囲の居酒屋や喫茶店はひっそりしていた。
- ⑰ トヨの頭の中はエリスへの罪悪感でいっぱいだった。
- ⑱ トヨが家にたどりついた時、エリスはすでに寝ていた。
- ⑲ 降りしきる雪の間に見えるエリスの家の窓の明かりは、エリスの運命のようだった。
- ⑳ 家に帰ったトヨに、エリスは「おかえりなさい」と言った。
- ㉑ トヨの顔色は青白く死人のようで、髪は乱れ、服は汚れ破れていた。
- ㉒ トヨは帰宅と同時に、帰国を承知したことをエリスに伝えた。